

砂漠化の進行を止める太陽熱水蒸気飛行船

雲の飛行船構想

進行する砂漠化

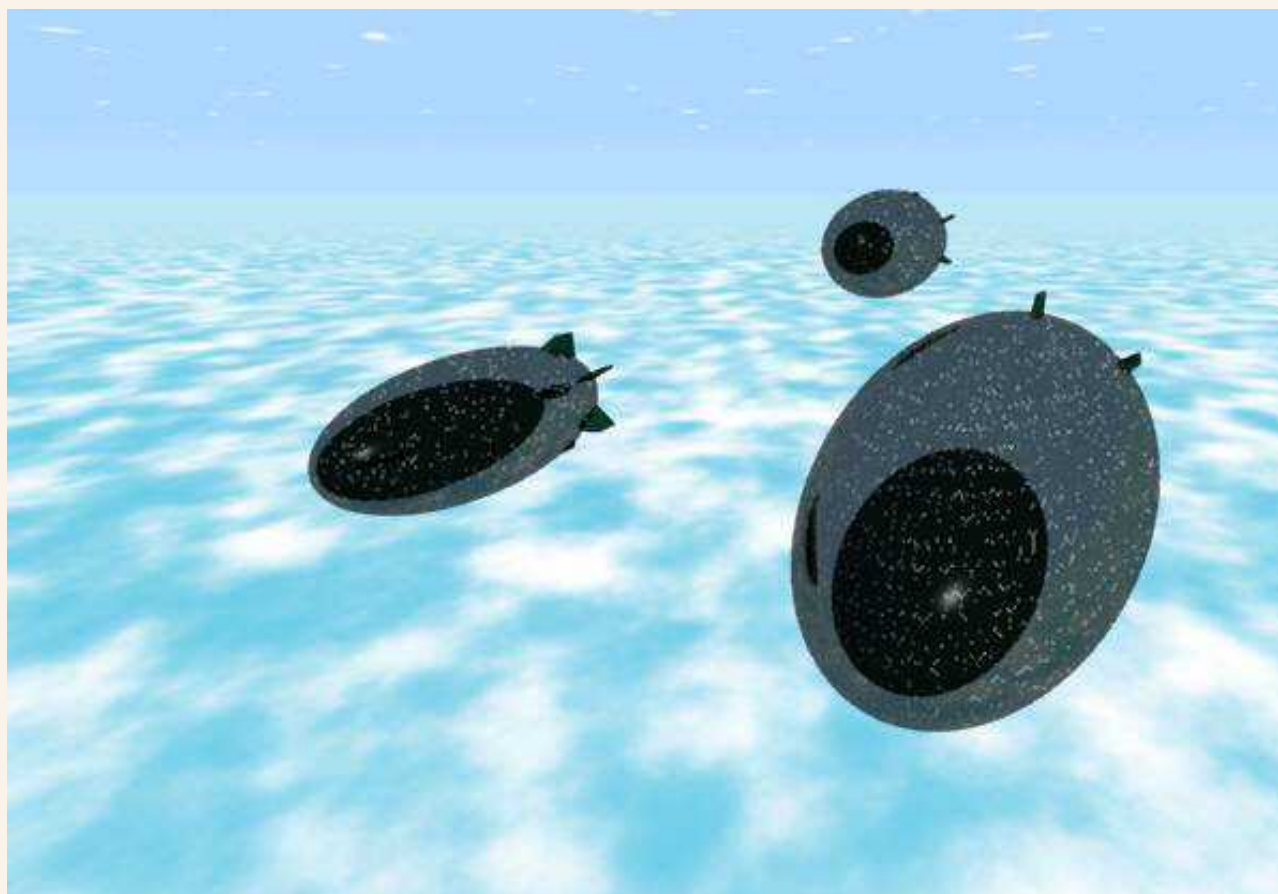


縮小するアラル海(NASA提供)

今地球規模で進行している最大の環境問題のひとつは砂漠化です。63億人を超えて増え続ける人口に食料を供給するため、持続可能でない方法で灌漑と放牧が行われた結果、黄河は枯れ、アラル海やチャド湖は干上がり、地下水位は下がり、増え続ける黄砂が深刻な被害をもたらしています。

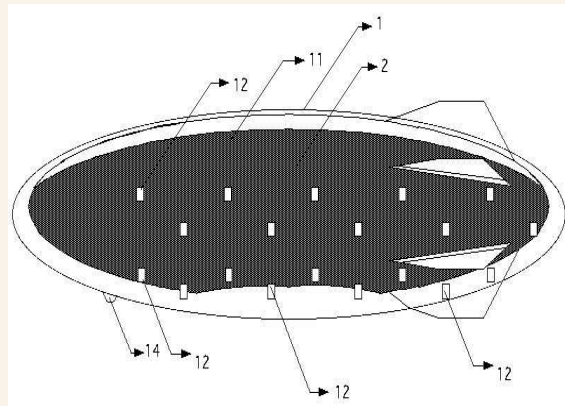
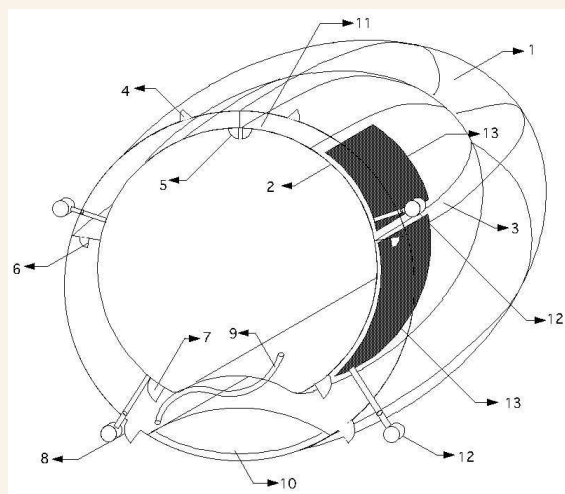
地球温暖化の気候変動が砂漠化に拍車をかけているとも言われています。

雲の飛行船とは。



乾燥地帯へ大量に水を供給する新しい方法です。

太陽熱で水蒸気を風にのせて運ぶ



水蒸気をでっかい飛行船につめて運ぶのが「雲の飛行船構想」です。

長さ300M直径150Mくらいのラクビーボール型の軟式飛行船の内部に、80度くらいの飽和水蒸気を入れると1000t単位の水になります。

熱を逃がさないように二重幕にし、太陽熱で暖めます。水蒸気は潜熱なのでなかなか逃げません。夜間も高度が下がる程度で乗り切れます。

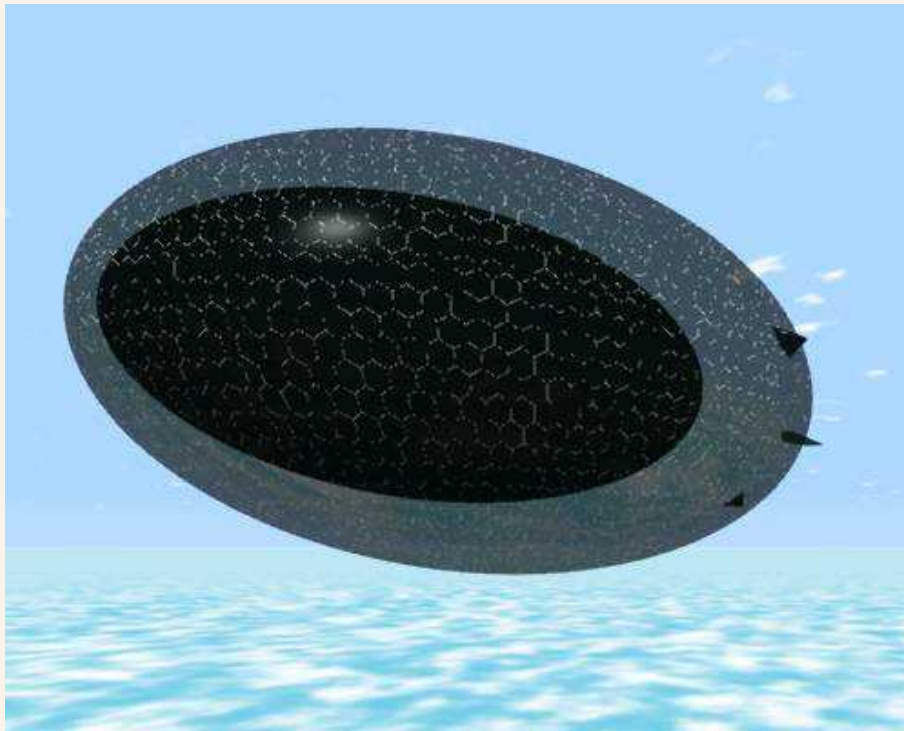
これを貿易風や偏西風にのせて水不足の地帯に飛ばすわけです。

水蒸気は空気よりはるかに軽いので(湿った空気が乾いた空気より軽いおかげで上昇し凍って雲になり、地球の気象が成立しています。)

これは少し強引に人工的に雨を降らせる方法とも言えます。

補助的な航行用の動力としては太陽電池を使います。

雲の飛行船は新しいリサイクル物流手段



水蒸気量が多いほど大きな浮力が生まれます。

この浮力を利用して安価な物資輸送手段ができます。

つかえるのに使われなくなった家電など、日本のゴミは途上国からみると宝の山です。

こういったものを運んで儲ける、21世紀の紀伊国屋文左衛門が現れるかもしれません。

帰りも乾燥空気を太陽熱で暖めて飛べるし、エアタンカーとして水蒸気より軽いメタンガスを運んでもよい。

中東から日本までならジェット気流にのせて3日あれば届きます。

雲の飛行船構想まとめ

地球規模の砂漠化を止める大量給水手段。
長さ300m直径150m程度のバルーンに水蒸気をつめる。
太陽熱で暖める。
偏東風偏西風などの定常風にのせる。
透過膜と熱吸収膜の二重膜構造で加熱と保温。
一隻の可載水量は1000t以上。
補助動力はソーラーパワーで自力航行可能
浮力を利用して安価なりサイクル物流手段を提供
帰りは天然ガスを日本に運ぶこともできる。
乾燥空気を太陽熱で暖めても飛べる。
比較的安価にできる。
さらに巨大化、船団化すればより効果的。

本プロジェクトについてのお問い合わせ先

有限会社 阿竹研究所

(ATAKE Space Design Laboratory Co.,Ltd.)

代表取締役 阿竹 克人

住所:〒460 0068

名古屋市天白区表台15

電話:052 837-6276

電子メール: atake@k.email.ne.jp

Web Page: www.atake-sdl.com